

国際植物防疫年 2020 (IYPH2020) における取り組みについて

農林水産省では、昨年の国際植物防疫年 2020 (IYPH2020) において、政府広報テレビ番組、国際植物防疫年ホームページや SNS を通じ、国際植物防疫年及び植物防疫に関する情報を発信してきた。また、企業・団体等と協力し植物防疫の重要性を周知するオフィシャルサポーター制度の実施、旅客機での広報ビデオの放映、植物防疫をテーマとした新聞紙面企画、関係団体の機関誌での紹介等、関係企業等と連携した取組も展開することができた。なお、サポーターが実施した活動については、国際植物防疫年オフィシャルサポーター制度ホームページ (https://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/iyp/iyp_os.html) で紹介している。さらに、国際植物防疫年 2020 を記念して植物防疫をデザインした切手 (図) が発行されたことや、植物防疫所におい



ては公式キャラクター「ピーきゅん」が誕生するなど、今後も記憶に残るであろう1年となった。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、国際的なイベントが中止・延期となったことを受け、国連食糧農業機関 (FAO) は、国際植物防疫年に係る活動を 2021 年半ばまで延長し、国際植物防疫年の終了イベントを 2021 年 7 月に開催することとした。農林水産省としても、国際植物防疫年に携わった企業・団体等とも協力しながら、引き続き植物防疫の重要性を周知する活動を実施していくこととしている。

図 「国際植物防疫年 2020」記念切手

ポジティブリスト対象病害虫の解説

— Pea early-browning virus —

Pea early-browning virus (PEBV) は *Tobravirus* 属に属する一本鎖 (+)RNA ウイルスで、血清型の違いにより 3 系統が知られている。1949 年にオランダのエンドウに発生した病害の病原ウイルスとして報告され、その後、ヨーロッパ各地及び北アフリカへ分布を拡大した。PEBV はマメ科植物に全身感染し、エンドウ等では感染種子により容易に伝播するため、日本への侵入が懸念されている。

PEBV に感染すると、葉の変色、壊死、種子の変色、植物全体の矮化及び早期衰弱の症状が生じる。エンドウやソラマメでは、PEBV の系統により症状が異なり、収量低下が報告されている。

PEBV の伝播方法として、前述の種子伝播の他に線虫 (*Paratrichodorus* 属及び *Trichodorus* 属の日本未発生種の複数種) がベクターとなる土壌伝播がある。防除方法として、PEBV 発生ほ場では、宿主植物を栽培しないことがあげられる。

諸外国の PEBV に対する検疫措置の一例として、ニュージーランドでは、ウマゴヤシ属、インゲンマメ属、エンドウ属及びソラマメ属の栽培用種子に対して、PEBV の無発生地域又は無発生生産地由来であることを要求している。また、イスラエルでは、ソラマメの栽培用種子に対して、栽培地検査又は公的機関における精密

検定を要求している。

PEBV は日本未発生であり、日本への侵入を防ぐ必要があることから、植物防疫法施行規則において検疫有害植物として規定し、2020 年 11 月 11 日から、発生国からの植物の輸入に際し、以下の検疫措置を輸出国に対して要求している。

- 対象国：イタリア、英国、オランダ、スウェーデン、ベルギー、ポーランド、アルジェリア、エチオピア、モロッコ、リビア
- 対象植物：アルファルファ、インゲンマメ、エンドウ、キバナノハウチワマメ及びソラマメの栽培用に供し得る植物並びにエンドウ及びソラマメの栽培用種子
- 検疫措置：輸出国において精密検定を行い、PEBV に侵されていないことを植物検疫証明書に特記する。

発行所 横浜植物防疫所

発行人 大友 哲也

編集責任者 角屋 竜雄

掲載 植物防疫所ホームページ

<http://www.maff.go.jp/ppsj/guidance/pestinfo/index.html>

無断転載禁止



<アンケートご協力のお願ひ>

本誌へのご意見を上記植物防疫所のホームページからお寄せください。